

令和7年度 第2回 高岡市地域公共交通活性化推進協議会 議事要旨

日 時：令和8年3月17日(火) 10:00～11:30

場 所：高岡市役所 803 会議室

委 員：20名中17名出席

議事要旨：以下のとおり

議題1：令和7年度の取り組みについて

概 要：資料1-1～1-4に基づき事務局説明

- (1) 高岡市地域公共交通計画に基づく基本方針に沿った具体的な施策を報告。
- (2) 市民にやさしい公共交通の実現に向けた勉強会の開催内容と成果を報告。
- (3) 高岡市地域公共交通活性化推進協議会分科会の開催内容と結果を報告。

議題2：高岡市地域公共交通計画における事業の進捗状況とアンケート結果の検討

概 要：資料2-1、2-2に基づき事務局説明

- (1) 計画の4つの基本方針に基づく評価指標の現状と今後の取り組みを報告。
- (2) 市民アンケート結果を基に公共交通の現状と課題について議論が行われた。

【委員からの意見・質問】

○ 金沢大学 中山教授

- ・ 市民アンケートの「8 公共交通の利用への転換について」で「転換可能」と回答した約3割の層はどのような人々か。「3 公共交通利用状況」では、公共交通利用状況は11%とあり、利用状況別の傾向分析として例えば、「公共交通を利用している人」、「転換可能な人」、「転換ができない人」の3グループで傾向に違いがあるか。特に、「転換可能な人」が重視する対策が明確であれば、それを改善点としたい。

⇒事務局

- ・ 今後、データを詳しく分析して、属性ごとのニーズや求める対策を分析してまいりたい。

○ 社会福祉協議会 炭谷様

- ・ 市民アンケートの満足度評価について、「自宅から駅・停留所への行きやすさ」、「駅・停留所周辺の駐車場や駐輪場の量」の結果がどの公共交通も低いことに対して、何か対応はできるのか。

⇒事務局

- ・ 高岡市地域公共交通活性化推進協議会で、満足度向上のため AI オンデマンドの路

線バスの運行を実証実験していきたいと考えている。また、駅や停留所の駐車場・駐輪場の量については、関連部局と協議をしながら必要な措置を検討する。

議題3：高岡市地域公共交通計画の変更について

概要：資料3に基づき事務局説明

- (1) 高岡市市民協働型地域交通システムの取り組み地区に新たに戸出地区を追加及び木津地区の運行便数の修正について説明。

【委員からの意見・質問】

○ 高岡市連合自治会 藤田様

- ・ 戸出地区での取り組みは、地域タクシーやノックル、地域バスのどの形態で取り組まれているか。

⇒事務局

- ・ 令和7年度は、地域バスの定時定路線で実証運行に取り組み、市からはワンボックスタイプの車両1台を無償貸与させていただいた。令和8年度は予約型の運行に取り組み、地域にとって最適な形を決定していくと伺っている。

議題4：令和8年度の取り組みについて

概要：資料4-1、4-2に基づき事務局説明

- (1) 令和8年度における高岡市の主な事業（公共交通活性化事業や市民協働型地域交通システム推進事業など）を説明
- (2) 令和8年度高岡市地域公共交通活性化推進協議会の事業(案)を説明

【委員からの意見・質問】

○ 富山県交通運輸産業労働組合 代理 山崎様

- ・ 新幹線の通学定期について、補助制度の内容や申請者数を教えてほしい。

⇒事務局

- ・ 新幹線を利用して通学されている方の定期券の一部を補助している。令和7年度は25名の方が利用されている。

○ 北陸信越運輸局富山運輸支局 景山様

- ・ 今年度、市民にやさしい交通の実現に向けた勉強会を開催されたが、次年度以降のビジョンは決まっているのか。

⇒事務局

- ・ 勉強会において、今後、交通事業者と協力しながら進めていくという方向性が確認できた。次年度以降は、本協議会において、調整、分析業務等を実施し、協議を進めたいと考えている。

○ 北陸信越運輸局富山運輸支局 景山様

- ・ 国土交通省の支援制度も活用いただきたい。
- ・ 他自治体では、自家用有償旅客運送の運賃を安価にしたことで、タクシーの利用者が減少し、タクシー事業者の経営を圧迫しているという話を聞く。公共交通サービスを再編していく際には、タクシー事業者やバス事業者と調整していただきたい。

○ 高岡市連合自治会 藤田様

- ・ 「基本方針2 交通資源のフル活用による市内の移動利便性の確保」の公共交通不便地域の割合について、令和7年度は6.8%とあるが、戸出地区の取り組みが実現すれば、どの程度目標値に近づくのか。

⇒事務局

- ・ 仮に戸出全地区で、市民協働型地域交通システムが導入されると、目標値の5.0%に近い数値となる見込み。

○ 富山県交通運輸産業労働組合 山崎様

- ・ 市民にやさしい交通の実現に向けた勉強会の中で、勉強会資料2の4ページには、「お帰りの検討を行う」とあるが、どのようにして決定したのか。

⇒事務局

- ・ 勉強会の中で、行きは概ね同じ時間帯に移動されるが、帰りの時間帯は人によって違うため、乗車密度が薄くなっている現状や、朝と夕方の乗車密度が異なる中で、同じ中型バスで運行することは、非効率だという話を伺っている。また、市民の方からは、帰りの便がないというご意見もあるため、検討項目の1つとした。

○ 富山県交通政策局 黒崎様

- ・ 市民協働型地域交通システムについて、令和5年度に中田地区、令和6年度に野村、木津地区で本格運行を開始されたが、本格運行の利用者数の推移は。

⇒事務局

- ・ 木津、中田地区では、増加傾向にある。中田地区は、会員登録数が伸びており、利用者数も増加しているところ。
- ・ 一方、野村地区は利用者数が減少しており、こうした状況については、年度末に地区の代表の皆様と、来年度の運行計画について意見交換を行っている。

○ 富山県交通政策局 黒崎様

- ・ 富山県では「電車・バスで行こうキャンペーン」を実施し、非常に多くの方に参加いただいた。
- ・ MaaS アプリ「my route」で、万葉線の親子対象のデジタルチケットを2月から販売開始した。沿線店舗にご協力いただき、特典も付いたお得なチケットとなっており、広く周知しているところ。ぜひ皆様にご利用いただきたい。

○ 加越能バス(株) 山崎様

- ・ 令和7年度に3回実施した高岡市地域公共交通活性化推進協議会の分科会のメンバーは。
- ・ また、令和8年度の実施体制とスケジュールについて、10月、12月に開催する分科会の形式は。

⇒事務局

- ・ 本協議会の委員から約10名の方に分科会に参加いただいております。今年度は3回書面会議を行った。来年度の市民にやさしい公共交通のあり方検討における分科会については、対面形式で行いたいと考えている。
- ・ 令和7年度分科会は、主に市民協働型地域交通システムに関連する委員として、富山県や加越能バス(株)、高岡交通(株)、北陸信越運輸局富山運輸支局、高岡市連合自治会の方々に書面会議で諮らせていただいた。

○ 加越能バス(株) 山崎様

- ・ 「高岡-新高岡駅の維持・強化」について、当社では同区間において路線バスを運行している。当初は10分間隔で運行していたが、利用者が少なかったため、現在は20~25分間隔で運行している。
- ・ 高岡-新高岡駅間の強化が必要との意見があるが、利用実態をふまえた運行をしている中で、「強化」とはどのような意味合いで考えているのか。

⇒事務局

- ・ 本市としては、高岡-新高岡駅間の一体化というところを施策の課題として認識しているところ。「強化」については、増便だけではなく、新高岡駅において、バスと城端線の時刻を表示しているモニターの設置場所を工夫することも強化の施策の1つと考えている。
- ・ また、交通事業者における担い手不足が深刻化している中で、加越能バス様のご協力をいただきながら自動運転の実現可能性が明確になれば、担い手不足の解消に寄与するのではないかと考えている。

○ 金沢大学 中山教授

- ・ 資料2-1について、基本方針1と4の評価指標として駅利用者や、公共交通利用者が増えていることは、利用者数が伸び悩む地域が多い中で、非常に良い結果だと思う。
- ・ 一方で、基本方針3の評価指標では満足度にあまり変化がなく、公共交通の利用率が12.7%から11%に減少しているという結果も出ている。
- ・ アンケートの回答率や調査方法に起因する可能性もあるが、満足度が変わらず、利用率が減っているのに、利用者数が増えていることについて、市外の方の利用が増えているという可能性も考えられるが、分析をお願いしたい。
- ・ 本日の協議会では、政策に関するご意見もあり、ぜひ市で整理していただきたい。データで示すことで明らかになることもあり、ICカード導入による満足度や利用率、市民協働型地域交通の利用状況、高岡-新高岡駅間の利用状況など、具体的な数値を提示していただくと良いと思う。
- ・ 高岡-新高岡駅間だけでなく、その先の各公共交通との接続も考慮に入れる必要がある。

※質疑応答、意見交換終了後、議題について、出席委員より承認をいただいた。

上記、議事を終了し閉会した。

以上。